第２回東京くらし方会議　意見交換　**議事概要**

〇日　時　令和５年５月22日（月曜日）　　午後１時00分から午後２時39分まで
〇場　所　都庁第一本庁舎42階　大会議室
〇出席者　権丈座長、笠木委員、小室委員、斉藤委員、鈴木委員、辻委員、
　　村田委員、森信委員

［議事要旨］

東京でくらし働く人々に関わる様々な社会の仕組みや企業の現場、家庭も含めた状況について、笠木委員、斉藤委員のプレゼンテーションの内容への意見、感想、委員ご自身の知見等を含め意見交換

［主な意見］

〈くらし方・働き方の変化に対する社会保障制度等について〉

・ 弱者保護の視点ではなく、日本の社会の発展、成長というポジティブな面から多様性を包摂するという視点での制度設計が必要。
・ フリーランスやギグワーカーにはセーフティネットが少ない。発注者やプラットフォーマーの負担によりセーフティネットを拡大するべき。
・ 求職中の非正規雇用労働者には、求職者支援制度等の生活支援と世の中のニーズに合ったリスキリング支援の両面が必要。
・ 社会保障の充実への期待が高いが、制度を充実する場合は多額の費用、つまり税、社会保険料が必要。

〈社会保障制度等の正しい理解と思い込みについて〉

・ 現在の制度は固定的な家族像を前提にできており、それがまた固定化を生んでいる。今こそ変えなくてはいけないという社会的な気運を高めるとともに、社会の認知を獲得するためのコミュニケーション強化が必要。
・ 固定的な性別役割の概念が世代を超えて若い人でもまだ変わっていないということに衝撃を受けた。制度だけでなく意識を変えていくことも必要。
・ 若者は「損する世代」と諦めている。年金は将来もらえたら幸運という気持ち。
・ 若者がアクセスし易いLINEやアプリ等の広報戦略により、社会保険料の負担と将来のリターンを可視化することで理解を促す取組も重要。
・ 「103万円」という数字だけが広がり、働き控えが得という刷り込みが多い。より多く働くと将来よりよい暮らしが可能となるモデルの発信により、思い込みを変えていくことが大切。

・ 年金の逆転現象については、モデルケースごとに公的機関が試算をして示す必要がある。
・ そもそも、加入することでメリットがある社会保険が強制加入ということを、説明することも理解することも普通では難しいだろう。
・ 社会保障の理解が進まなかったことは事実で、なぜ今まで理解が進まなかったのかを検討すべき。

〈仕事と家事・育児の両立等について〉

・ 長時間労働で社会的支出を増大させている企業に対し、例えば高い税率を課すような仕組みを期待。
・ 経済効果も期待できるラーケーション（家族旅行等を活用した学びの機会という名目で欠席扱いにならず学校を休める制度）を作ってほしい。
・ 育業中の保育園入園、小学校における土曜授業削減、安価な育児・家事支援等、各自治体の好事例を全国で展開してほしい。
・ 「俺のおむつ交換台」というハッシュタグが数年前にあったが、男性用トイレにおむつ交換台が少ない。社会の仕組みに男性の子育てを想定する必要がある。
・ フランスの女性の就業率は85.5%と非常に高く、３歳以上の子を持つ場合でも84%である。
・ フランスでは、週35時間労働制の導入、公労使による全国家族会議、個人へのヒアリングをもとにきめ細かな公的給付等を進めたことなどで、男女ともに家事・育児に取り組めるようになった。